

ごあいさつ

皆さま方には、平素より沼津信用金庫をお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。
また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けられた皆さま方に、謹んでお見舞い申し上げます。
本年も当金庫に対するご理解を一層深めていただくため、ディスクロージャー誌「沼津信用金庫レポート2021」を作成いたしました。本誌は当金庫の経営方針や業務内容、最近の業績、健全性などについてまとめたものです。ご高覧のうえ、当金庫の経営内容につきまして、より一層のご理解を賜れば幸いです。

昨年度は、当金庫創立70周年の記念すべき年度であり、次の創立80周年に向けた新中期経営計画の新たな出発点としての大きな節目の年でもありました。信用金庫としての社会的使命と役割を果たすべく、役職員一丸となって「企業理念の実現」「お客さま時間の拡充」など、お客さま本位の業務推進・地域貢献へと果敢に取り組み、新しい時代・変化の激しい時代を“地域・お客さま・職員”とともに乗り越え、「豊かな明るい未来の実現」を重要な行動指針に掲げました。

2020年度を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症の拡大によって観光業や飲食業などを中心に非常に厳しい状況が続き、特に中小・個人事業所、ならびに従事者・生活者の皆さまにおいてはマイナスの影響が長期化しました。今後、ワクチン接種の普及による経済の早期正常化が望まれます。

一方で新型コロナウイルス感染症の拡大は、テレワークやオンライン会議の導入、キャッシュレス決済の普及など、Withコロナを見据えた新しい生活様式への移行といった形で、社会やビジネスモデル自体に大きな変化を引き起こしました。

当金庫においても、社会における長寿化やライフスタイルの多様化によるお客さまのニーズの変化に合わせたコミュニティ・バンクとしてのサービスの検討・推進や、政府の重要施策である“デジタル化と脱炭素化”の官民一体となった連携・推進、ならびに自然災害・感染症発生時のBCP・危機対応マネジメントなどへの対応がさらに求められていると考えております。2021年度も引き続き「地域との連携強化による地域活性化」「お客さま本位の業務推進とお客さまロイヤリティの向上」「職員満足度の向上と人材育成」「健全な経営・組織体制の強化と充実」の4項目を重点施策としたうえで、「Society5.0 for SDGsの実現」に向けた取り組みを始めたいと考えております。また安心・安全で豊かな「高<幸>齢社会」の実現を目指して、地域との連携・交流を深めてまいります。

今後も役職員一同お客さまと地域に向けた経営に努めてまいりますので、更なるご支援とご愛顧をお願い申し上げますとともに、皆さまの益々のご健勝を心からお祈り申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

なお、本年度のディスクロージャー誌「沼津信用金庫レポート2021<資料編>」につきましては、当金庫のホームページ上に掲載しておりますので、お手数ではございますがご確認いただければ幸いです。

令和3年7月
理事長 紅野 正裕



企業理念

私たちの使命

地域のみなさまの夢を育て、質の高いサービスを提供します。

「ぬましん」は、地域に密着した金融機関として、みなさまに充実したサービスを提供していきます。そして、地域のみなさまの夢をかたちにしてお手伝いをしていきます。

私たちの精神

お客さまとのふれあいを大切に、チャレンジ精神で柔軟に対応します。

「ぬましん」は、お客さまとの共感を最も大切にします。そして、お客さまのニーズをしっかりと把握し、積極的に応えていきます。

私たちの姿勢

誇りとロマンを求め、魅力あふれる企業をつくります。

「ぬましん」の職員は、いつもお客さまに信頼されているというプロフェッショナルの誇りを持っています。そして、仕事にロマンと広がり求め、働きがいのあるより良い企業をつくっていきます。

沼津信用金庫プロフィール

2021年3月末現在

創立	1950年4月20日
本店所在地	静岡県沼津市大手町五丁目6番16号
出資金	701百万円
預金積金	551,895百万円
貸出金	238,352百万円
自己資本比率	15.91%
役職員数	431名
店舗数	30店舗

2020年に
70周年を迎えました



コーポレートマークの コンセプト



当金庫のコーポレートマークは人が力強く歩く姿をシンボライズしたもので、地域とともに発展していく経営姿勢や人のもつ温かさをフリーハンドで表しています。ぬましんレッドは情熱を、ぬましんブルーは調和をイメージしております。これからも、皆さまから信頼されるパートナーとして私どもを知っていただければ幸いです。

CONTENTS

》 Introduction P.01~06

- 01 ごあいさつ
- 02 企業理念
- 03 目次・重点施策
- 05 業績ハイライト

》 地域社会とともに P.07~20

- 07 地域経済活性化への取り組みについて
- 08 お客さま満足度向上に向けた取り組み
- 09 新型コロナウイルス感染症に対する当金庫の活動
- 11 SDGs宣言
- 12 相談センターの取り組み
- 13 ぬましんCOMPASS
- 15 TOPICS・活動報告
- 17 新時代にむけて、進化するぬましん
- 19 ストリートギャラリー

》 金融仲介の取り組み P.21~24

- 21 金融仲介機能強化に向けた取り組み

》 経営管理体制 P.25~29

- 25 コンプライアンス体制・リスク管理体制
- 28 顧客保護体制
- 29 業務運営方針

》 業務のご案内 P.30~35

- 30 営業・サービスのご案内
- 33 手数料一覧

》 組織概要 P.36~38

- 36 役員一覧・組織図
- 37 総代会制度

》 店舗案内 P.39~42

- 39 店舗案内
- 42 店舗マップ

》 資料編はこちら

「資料編」として当金庫のホームページに掲載しておりますので、閲覧を希望されるお客さまは、下記のウェブサイトからご覧ください。

なお、インターネットの操作が分からないお客さままたはインターネットに接続できる電子機器(パソコン、スマートフォン等)をお持ちでないお客さまは、別途ご案内いたしますので、当金庫職員までご相談ください。

https://www.numashin.co.jp/about/files/disclo_2021_shiryou.pdf

コチラから簡単アクセス▶



ぬましんは、地域のみなさまとともに
地域経済の発展に積極的に取り組んでおります。



中期経営計画 重点施策

- 1 地域との連携強化による地域活性化
- 2 お客さま本位の業務推進とお客さまロイヤリティの向上
- 3 職員満足度の向上と人材育成
- 4 健全な経営・組織体制の強化と充実



本誌掲載の職員の写真については、新型コロナウイルス感染症拡大予防対策に細心の注意を払ったうえで、職員の雰囲気表現のためにマスクを外して撮影しております。

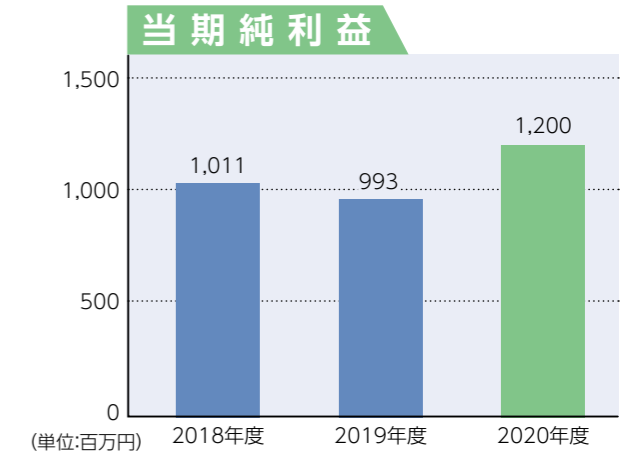
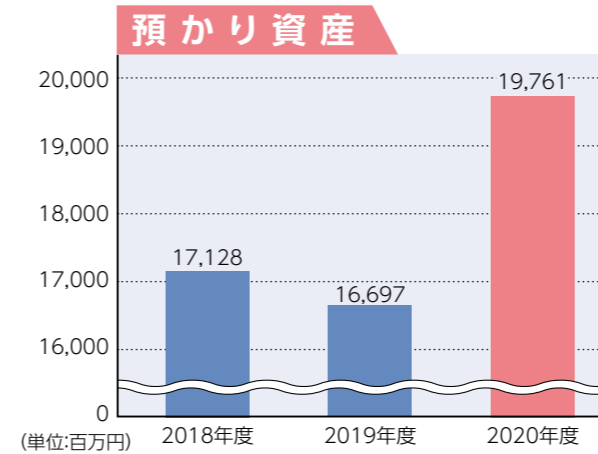
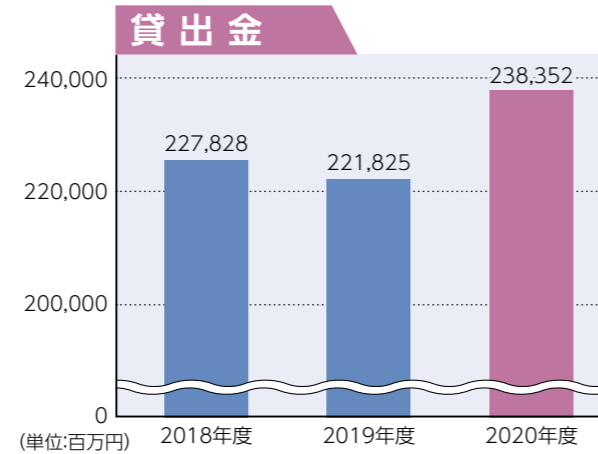
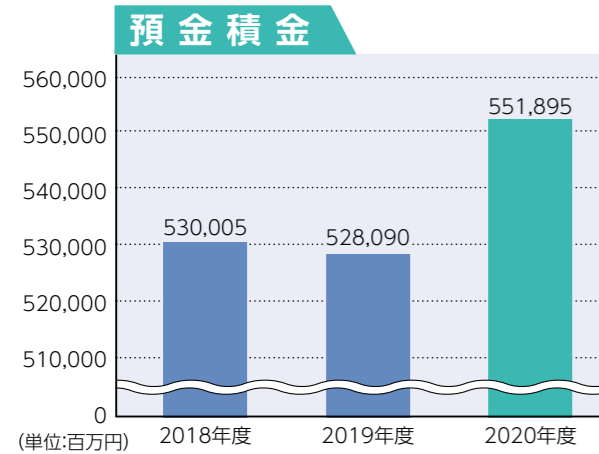


事業方針

2020年度は、信用金庫としての社会的使命と役割を果たすべく、役職員一丸となって「企業理念の実現」「お客さま時間の拡充」などお客さま本位の業務推進・地域貢献へと果敢に取り組み、新しい時代・変化の激しい時代を「地域・お客さま・職員」とともに乗り越え、「豊かな明るい未来の実現」を事業方針といたしました。

2021年度も引き続き「地域との連携強化による地域活性化」「お客さま本位の業務推進とお客さまロイヤリティの向上」「職員満足度の向上と人材育成」「健全な経営・組織体制の強化と充実」の4項目を重点施策に「Society 5.0 for SDGsの実現」とともに、お客さまと地域に向けた経営に努めてまいります。

業績



預金積金残高 5,518億円

2020年度の預金積金については、個人年金受給者口座や取引先事業所の従業員さま向け口座の増加を目標として活動するとともに、法人預金口座の活性化を推進した結果、要払性預金を中心に期末残高は5,518億95百万円と前期比4.50%の増加となりました。

貸出金残高 2,383億円

貸出金については、地域金融機関として営業地区内事業者さま向けの資金繰り支援を第一義的な行動指針と定め、制度融資である「国連携新型コロナウイルス感染症対応貸付」などの取り扱い活動に注力した結果、期末残高が2,383億52百万円と前期比7.45%の増加となりました。

預かり資産残高 197億61百万円

市況回復および将来の不安に対する備えから、対前期比30億64百万円増加となりました。

当期純利益 12億円

当期純利益は、貸出金残高の増加などを要因に12億円と前期比2億7百万円の増益となりました。

主要な経営指標

貸出金残高の増加や有価証券関連損益の増益などにより、経常利益が17億68百万円(前期比2億55百万円の増益)となりました。また、金融機関における基本的な収益力をあらわす業務純益については、17億48百万円と前期比60百万円の増益でありました。

項目	第67期 (2016年度)	第68期 (2017年度)	第69期 (2018年度)	第70期 (2019年度)	第71期 (2020年度)
経常収益	9,336,395	8,024,662	8,115,780	8,452,541	8,964,569
経常利益 (千円)	2,635,265	1,606,541	1,454,931	1,512,635	1,768,259
当期純利益	2,174,095	1,399,057	1,011,377	993,021	1,200,937
出資総額 (百万円)	703	704	705	701	701
出資総口数 (千口)	7,032	7,049	7,056	7,014	7,010
純資産額	37,708	37,896	40,442	35,501	42,626
総資産額	542,755	560,153	578,737	570,084	603,942
預金積金残高 (百万円)	497,290	514,012	530,005	528,090	551,895
貸出金残高	219,315	221,466	227,828	221,825	238,352
有価証券残高	243,652	258,057	265,304	263,942	291,314
自己資本比率(単体) (%)	16.08	15.72	14.65	14.79	15.91
出資に対する配当金 (年%) (出資1口当り)	6	4	4	4	4
役員数 (人)	10	11	11	11	13
うち常勤役員数 (人)	7	8	8	8	9
職員数 (人)	400	397	402	413	422
会員数 (人)	26,282	26,250	26,116	25,898	25,805

*金額は単位未満を切り捨てて表示してあります。
*「自己資本比率(単体)」は、信用金庫法第89条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用金庫がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当かどうかを判断するために金融庁長官が定める基準に係る算式に基づき算出しております。なお、当金庫は国内基準を採用しております。

自己資本比率の状況

自己資本比率は運用している資産等のリスクに占める自己資本の割合で、金融機関の健全性を判断する上で重要な指標であります。

当金庫の2021年3月末の自己資本比率は、前期比1.12ポイント上昇し、15.91%となりました。国内基準の4%を大幅に上回る水準にあり、経営の安全性や健全性が高いことを示しています。



自己資本比率の算出について

$$\text{自己資本比率} = \frac{\text{自己資本の額 (出資金や利益剰余金などの合計額)}}{\text{リスク・アセット等の額の合計額}}$$

*リスク・アセットとは、リスクを有する資産(貸出金や有価証券など)をリスクの大きさに応じて掛け目を乗じ再評価した資産金額のことをいいます。

